

「震災後の学生状況把握に向けたアンケート」の調査結果についての報告

平成 28 年熊本地震が熊大生の心身の健康に与えた影響を調査し、学生の健康維持のために必要な支援を検討することを目的として調査を行った。

【調査期間】

平成 28 年 7 月 22 日～同年 10 月 31 日

【調査方法】

学内 e-learning プラットフォームである moodle を利用し、被災状況や精神的健康について、下記の質問票等を用いて調査を行った。なお、熊本大学生命科学研究部研究倫理委員会の承認を得て調査を行った。

抑うつ・不安：K6

PTSD：Screening Questionnaire for Disaster Mental Health (SQD)

【結果】

留学生 11 名を含む 1199 名から回答を得た（15 名の学生が 11 月 1 日から 12 月 27 日までの間に回答したため、これらの学生も調査報告に含めた）。同意の得られた日本人学生 1164 名と留学生 9 名を分析の対象とした。

調査回答者の性別と学年について

日本人学生における回答者の性別は、男性が 52%、女性が 48%であった（図 1）。日本人学生においては学部学生が全回答者の 86%であった（図 2）。学年については、学部 1 年生が 358 名(30.8%)、2 年生が 182 名(15.6%)、3 年生が 191 名(16.4%)、4 年生が 226 名(19.4%)、医学部と薬学部 5 年生が 31 名(2.7%)、6 年生が 16 名(1.4%)、修士課程 1 年生が 68 名(5.8%)、修士課程 2 年生が 54 名(4.6%)、博士課程 1 年生が 7 名(0.6%)、博士課程 2 年生が 10 名(0.9%)、博士課程 3 年生が 14 名(1.2%)、博士課程 4 年生が 7 名(0.6%)であった（図 3）。

留学生については、男性が 4 名、女性が 5 名であり、学部 2 年生が 1 名、博士課程 1 年生が 2 名、博士課程 2 年生が 4 名、博士課程 3 年生が 2 名であった。

被災状況について

建物の被害については 4.2%が半壊以上、51.1%が家具や備品が被害に遭った、0.9%が自分自身に怪我があったと回答した。ほとんど被災はなかったと回答した学生は 41.1%であった。

心身の健康について

65名(5.6%)が地震後に「頭痛、腹痛、吐き気、下痢めまい等の持続的な不調がある」と回答した。抑うつ・不安については、19%がカットオフ値を上回っていた(図4)。PTSDの症状については、4%がハイリスク群に該当することが明らかになった。また、抑うつ・不安、PTSD共に、震災前から精神的な不調を感じている学生がPTSDのハイリスク者の中に多くみられた($\chi^2 = 58.0, P < 0.001$)。

心理面談を希望した学生や抑うつ・不安の強い学生に連絡を取り(計48名)、14名に面談を実施し、中には定期面談に繋がった学生もあった。

